

全抑協発足以来率先して様々な行事に参加しているのも、生きて帰った者の務めとして、元気なうちは頑張っていこうと思っている。

一度抑留地を訪ねて慰霊をして来たいと考えているが、残念ながら体力がなく、その願いは果たせずにいる。

今の世相を見ると誠に悲しいと言うか、情けないと言うか、古き良き時代の日本はどこへ行ってしまったのか、もう一度美しい堂々たる日本にしてほしいと、今はただそれだけを念願している。

幸いにも私たちはこのすばらしい仲間が多勢いる。力を合わせてこの運動を推進してゆきたいと考えている。

シベリア抑留記

岐阜県 加藤 嘉 貞

大正十二（一九二三）年十一月十四日、土岐市駄知

町に生まれる。

昭和十三（一九三八）年三月、駄知尋常高等小学校卒業。

〃 十三年四月、駄知町駄知殖産株式会社に就職。

〃 十六年六月、陸軍兵器学校に入校。

〃 十八年十月、〃 卒業。

〃 〃 十一月、満州国凶們通過。

満州第十六野戦自動車廠に転

属。

〃 十九年十月、満州第一三〇四一部隊転属。

〃 二十年八月、終戦。

〃 〃 十月、ブラゴエシチェンスクよりチェレンホーボ付近の収容所に入る。

主として炭鉱の採炭作業に従事する。

二十一年秋頃のことですが、その作業のうちに発疹チフスにかかり入室、治療を受けるも栄養失調となり、体力四級（OKA）と診断され、作業はなしとなりました。その期間中に七百人人所した戦友たちのう

ち同じようにチフスで三百人近く死亡し、その始末はどうなったか、私どもでは分かりません。

入ソ当時まだ体力もあって元気いっぱい頃、警備兵との間にトラブルが生じ、マンドリン銃を構えられ、もうこれで終わりだなと覚悟したことがあります。今、思い出しても冷汗の出る出来事でした。

昭和二十二年四月收容所を出発、ナホトカへ。五月三日復員しました。

昭和五十八年に全抑協に入会、この運動に参加しております。元気なうちに一度現地を訪れて慰霊をして来ないと私の戦後は終わらないと考えておりますが、残念ながらまだその機会に恵まれません。

私の回想記

岐阜県 山 口 武

一、兵役

昭和十九（一九四四）年一月八日、軍隊入営日に檢

査で造られた大きな出征の門前に立ち、多数の隣人友人たちに日の丸の旗、歓呼に送られ、ああこれで男子の本懐やっとお国のためになれると思ひ、父は姉妹で数だけはたくさんいるが男一人の門出をさも自慢気にし、隣人の方々に一献差し上げて回り、常に言っておりました、裏の伊沢さんと二家だけが世間体も悪く小さくなっているだと言われた言葉を思い出していました。クラブ前に集合の皆様一言挨拶、万歳万歳の歓声を受け、町内会長さんを先頭に小学校校庭に集結。同年水野米造君をはじめ、小中学校生、男女青年団員、消防団、国防婦人会、各町内会の方々の祝辞に応え六人を代表して挨拶。歓呼の中、日の丸旗に送られ土岐市駅着、発車。鉄道沿線には小旗を振りたくさんの人々が延々と列を造り、歓呼の声に送られ、ああこれで故郷も見納めと思うとふと目頭が潤ってきました。当時の市助役山路さん引率で大阪より夜行、広島に着き駅前旅館に一泊し、広島見物後六人同室、思い思いを語り合いながら就寝。明けて練兵場にて入営手続終了。晴れて軍服に着替え、満身の喜びに胸熱く感